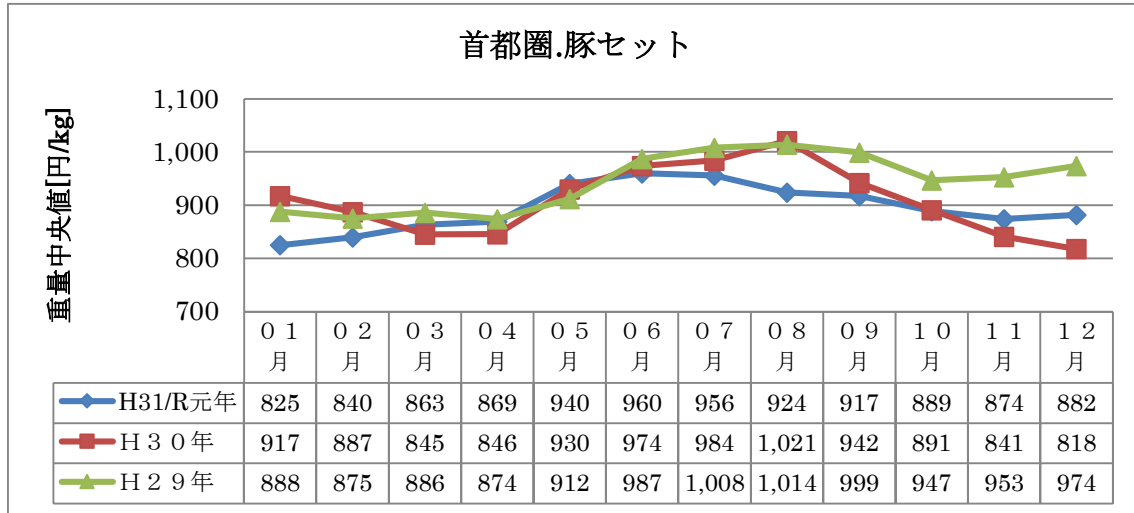


最近の価格動向等について

(※年末年始の首都圏の価格動向等について、センターの公表資料と公表委員(出店者)のコメント等により作成)

〈国産豚肉〉

豚カット肉「I」セット価格(首都圏)の推移



注：表内の価格は税込み(以下同じ)

○価格動向

- ・枝肉価格は、夏場に前年を下回ったものの、9月以降、前年を上回って推移。部分肉セット価格も概ね同様の傾向で、11月以降は前年を上回って推移。
- ・枝肉価格については、動きが昨年と比べると良かったため、前年を上回ったが、盛り上がりには欠け、そんなに高いという感じはしなかったとのこと。価格自体は安定的で商売もやりやすかったため、顧客に提案する商品の組み合わせが上手くできたとの話も。
- ・価格がそれほど上がらなかった要因には、量の問題としてチルドポークの輸入動向が反映しているとの見方も。
- ・部分肉価格は、全般的にセットに比べパーツが安かった模様だが、年末の最後に、ばら、かたロースのパーツ取引が高値になったとの話も。
- ・年始の枝肉相場は、在庫が少なく補充需要があったため上がったが、取引の流れが一巡すると落ち着いたとのこと。

○部分肉の販売動向

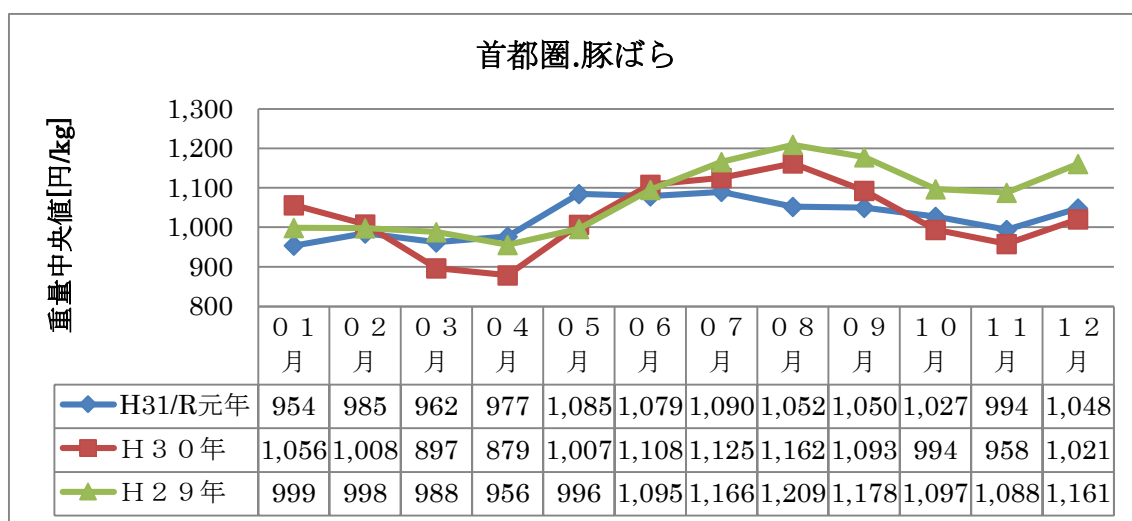
- ・全般的に、かたロース、ばらが動いたが、スソ物(うで、もも)は動かなかったとのこと。かたロースは主に量販店の惣菜需要(チャーシュー用)や加工需要(年末ギフト向け)、ばらは主に鍋需要。専門小売店向けでも、かたロース、ばらが良く出ていたとのこと。

・野菜が安かったなので、鍋材（スライス材）が売れた中、ばらは足りないうらいで、凍結物もチルドとあまり変わらない価格で取引されていたほどだったとの話も。

・ロースは、輸入ロースに押されて動きが悪かったが、クリスマス以降は動きを取り戻したとの話がある一方、ロース、ヒレについては、12月下旬は牛肉に需要が移ったため動かなかったという話も。

・忘年会が年々減ってきている感もあり、外食向けの動きは悪かったとのこと。その中で、元日から営業した外食は良かったようで、元日営業で、例年の1月の落ち込み分をカバーできたところもあるとの話が。

豚カット肉「I」ばら価格（首都圏）の推移



○その他の話題

・CSFは、ワクチン接種を含め商売上の問い合わせはないとのこと。また、CSFの発生に関係なく注文は入っているので、影響は感じないとの話も。むしろ、ASF関係の問い合わせが多いとのこと。

・ただし、沖縄県で発生したCSFの影響がアグー豚の流通に出はしないかと懸念している者は多い。

・消費税増税の影響で消費が落ち込んでいることのほうが、影響として大きいとみている者が多く、お歳暮などの贈答品需要減によりハムソーの加工需要が減っているのではないかとの見方も。

○今後の見通し

・中国の動向で輸入物の価格が動いて、それにつれて国産物の価格が動く流れにあるとの見方をする者が多く、今後も続くとのこと。中国だけではなく、韓国でのASF発生による生産量の減少も、輸入物相場に影響するだろうから、それが国産物相場へどう影響するか注視している者も。

・枝肉相場については、前年並みか少し上回るくらいとの見方が主で、1~2月は400~430円/kg（税抜）くらいとの予想も。

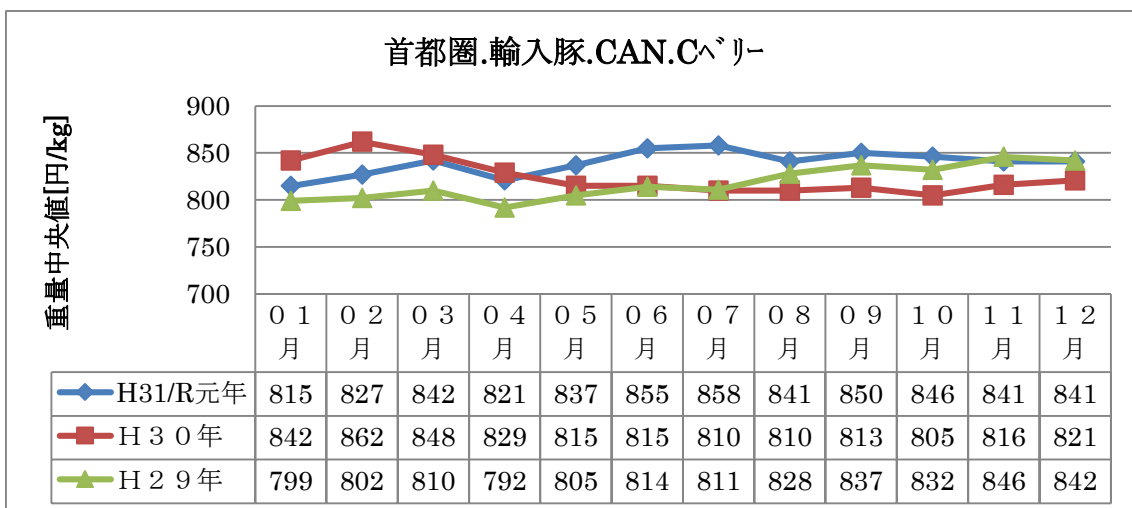
・2月は相場が上がらない時期なので、量販店が特売を組みやすく、商売は少し良くなると期待する者も。一方、冷凍在庫の量によるが、投げ物が多いようだと一気に値崩れすることを懸念している者も。

〈輸入豚肉〉

○販売動向等

- ・全般的に、かたロースの動きが良く、ばら（ベリー）はまずまずの動きだった模様。
- ・チルドはカナダ産のロースが安価なため、ベリーは国産のばらが足りないため、動きが良かったとのこと。
- ・フローズンは産地を問わず、加工向けにベリーが動いたとのこと。ベリーは高値で推移していたため、振り回された感があるとする者も。中国は、ばらともにも需要があり、中国のASFや旧正月需要の影響で、ベリー価格が前年同時期と比べて50円/kg（税抜）くらい高かったとの話も。
- ・消費税増税もあり、外食自体が売上を落としているので、外食向けの動きが悪かったとのこと。
- ・量販店向けに、年末はロースとベリー、年始はスソ物が動いたとのこと。
- ・量販店向けでは、12月からの傾向で、例えば、お店の作業の省力化のため、豚肉は米国产トリミング、牛肉は豪州産ブリスケットを原料とした香辛料を混ぜたミンチを納品することが多くなったとの話も。
- ・年末は国産物、年始は輸入物という流れもあったと感じる者も。

カナダ産チルド.ベリー価格（首都圏）の推移



○その他の話題

・11月頃から国産物の価格が下がってきたので、スソ物などで輸入物から国産物へシフトする動きがあり、年末年始において、輸入物へのシフトはなく、国産物の扱いを維持している量販店が多かったとの話。なお、加工向けは国産豚肉と輸入豚肉の棲み分けがほぼついた状態なので、特段のシフトの動きはない

とのこと。

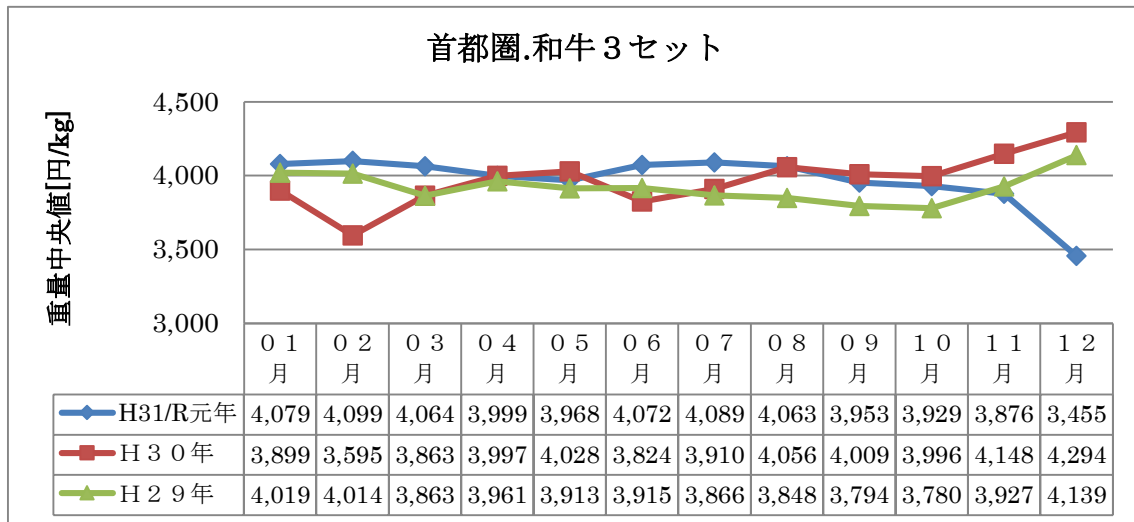
・輸入動向に関しては、中国に買い負けしているため、売り手の言い値で買うしかないと嘆く者も。

○今後の見通し

- ・中国の旧正月需要も落ち着いた感があり、原産地価格の上昇も一旦止まるのではないかとの見方の一方、輸入物の相場は強いままとの見方も。
- ・価格は中国の動向次第で、ASFの動向を注視するとする者が多い。
- ・量販店の特売が1~2月に増えるので、そのタイミングで輸入物の動きが出るとの見方も。

〈牛肉／和牛〉

和牛チルド「3」セット価格（首都圏）の推移



○価格動向

・枝肉価格は、A3を除き4月中旬を境に弱含みで推移し、8月以降はA3を含め前年を下回る水準に。12月は全等級で11月を下回った。和牛チルド「3」セット価格は、9月以降前年を下回る水準で推移し、12月は11月を下回った。和牛チルド「4」セット価格は、12月は前年に比べ安かったが11月を上回った。

・枝肉価格が年末に上がらず、12月が11月より低いのは経験がない想定外のこととの印象を持った者が多い。

・枝肉価格の年末相場については、年末年始分の仕入手当の仕掛けが、11月末頃と早かったため、12月は息切れしたとの見方も。消費税増税の影響で消費者の購買意欲も乏しい中、暖冬による鍋需要の減少の影響もあったのではないかとみる者も。

○部分肉の販売動向

・かたロースなどパーツの動きは例年通りだったとみる者が多く、かたロース、

リブローズ、サーロインの動きが良かったとのこと。もも系については、赤身志向で動いたとする者がいる一方、焼肉屋向けのらんいち、しんたまが余ったとする者が。

- ・焼き材が不調だったため、ばらの動きが悪かったとする者が多く、投げ売りした者も。

- ・凍結に回していたかたローズは、在庫を抱えたままのところも多いとの話を聞くとのこと。売れなかったときに困るので、かたローズの凍結も減ってきているようだとの話も。

- ・量販店の中では、和牛の相場が安かったので、和牛の棚面積を多少増やした店があったとのこと。

- ・外食は芳しくなかったとする者が多く、そのため、焼き材が動かず、外食向けは、牛のタンやハラミなどの内臓系が少し動いたくらいで、ほかの部位はほとんど動かなかったとの話も。ロスを出したくないため、かたローズ、リブローズの仕入れに慎重だったとの話も。また、より安価な店だけに客の入りがあったようだとの話がある中、元日に営業した外食店は良かったとのこと。

○その他の話題

- ・和牛から交雑牛や乳牛、輸入物へシフトしている動きについては、年末年始も変わらなかったとの見方の一方、年末は、交雑牛、乳牛から輸入物へのシフトはあったが、和牛相場が安かったため、値段の面でも交雑牛よりも和牛という志向があったのではないかとの見方も。

- ・出荷頭数が少ない和牛3等級から、交雑牛へのシフトがみられたとの見方もある一方、交雑牛の代替で和牛3等級の在庫でつなぎの商売をしたとの話も。

- ・忘年会が減っているためか、すき焼き用の動きが良くなかったとする者は、消費税増税の影響を感じるとのこと。

- ・そのほか、植物肉の動向が今後どうなるかを懸念する者も。

○今後の見通し

- ・枝肉価格については、動きは良くないので、上がらないとの見方。当面、税込みで、A5：2,600円/kg前後、A4：2,200円/kg、A3：2,000円/kgを切るくらいの予想をする者も。

- ・出荷頭数も増えると見込まれ、3月まで枝肉相場は上がらず、3月にお花見需要の焼き材から動き始め、夏頃まで前年比で同じくらいの推移と見込む者も。

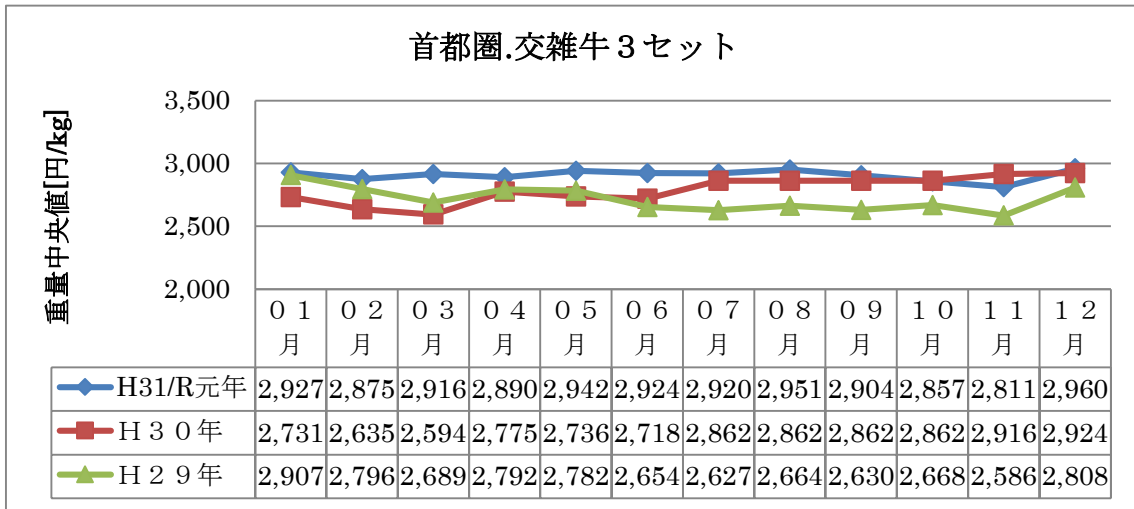
- ・余ったばらを小割りスペックにカットして保管し、商機を待つとの話も。

〈牛肉／交雑牛〉

○価格動向

- ・枝肉価格は、10月以降、前年を下回って推移したが、12月は概ね前年並みに。交雑牛チルド「3」セット価格も枝肉価格と同様に推移。

交雑牛チルド「3」セット価格（首都圏）の推移



○部分肉の販売動向

・和牛同様、かたロース、ロイン系が動き、ばらの動きが悪かったとの話が主。もも系については、動きが悪かったとする者の一方、かたと一緒に動きは良かったとする者が。

・和牛に比べて価格面で消費者の購買意欲があるため、消費税増税後でも11月以降は、動きが多少良かったとのこと。

○今後の見通し

・枝肉価格は、当面、高いながら安定し、B3で1,600円/kg強（税込み）と予想する者もいる。

〈輸入牛肉〉

○販売動向等

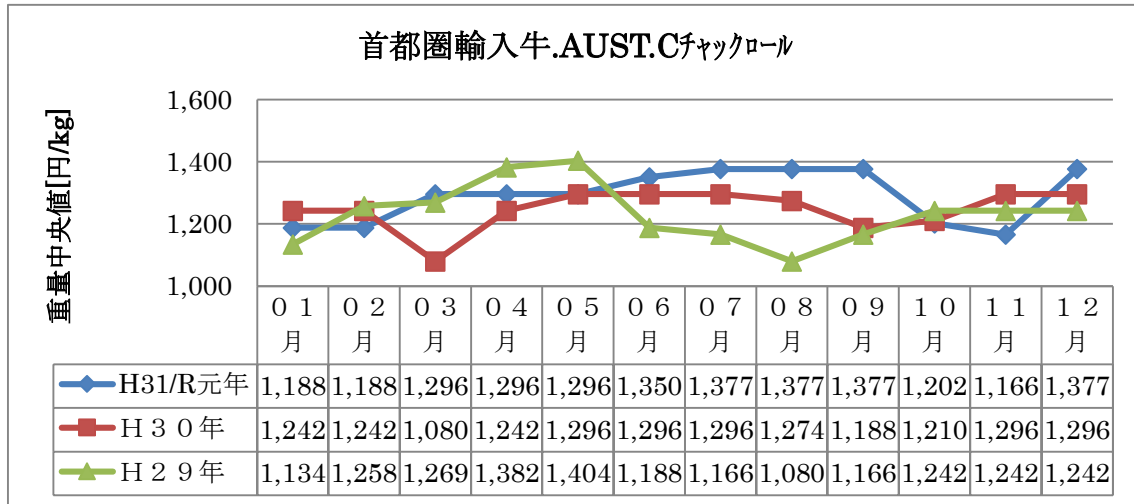
・全般的にロイン系とかたロースが動いたようで、年末のローストビーフ需要で、もも系の動きも良く、特にトップサイド（うちもも）が動いたとのこと。

・和牛と同様、外食向けは良くなかったため、チャックリブ等のばら系など焼き材は動かなかったとのこと。また、量販店のテーブルミート（スライス材）向けのクロッドと加工向けのブリスケットが動かなかったとの話も。

・豪州産、米国産ともアンガス種については、量販店からの引き合いが好調だったとのこと。

・価格面では、豪州産は挽き材のほか、ばら系が中国の動向によって値が上がったとのこと。

豪州産チルド・チャックロール価格（首都圏）の推移



○その他の話題

- ・ASFの間接的な影響として、中国の牛肉への代替需要については、豪州産の高騰で実感したとの声がある。中国でのハンバーグ需要の高まりから、今後も中国の牛肉需要は増えていくとの見方や、中国の輸入量は米中間の政治要因に左右されるとの見方も。

- ・日米貿易協定の発効により、カナダ産にシフトしていた顧客が米国産に戻ってきているとの話もあり、今後、米国産の扱いは増えるだろうと見込む者が多い。価格動向を見ながら、顧客から要望があれば、扱いを増やすとのこと。

- ・具体的にショートリブなどが増え、米国産の輸入は豪州産並みに増えると予想する者も。ただし、今のところ関税引き下げ分安くなったとの実感はなく、関税が下がっても、現産地価格が上がっている分などで相殺されるのではないかとみる者も。

- ・そのほか、豪州の火事の影響を心配する者も。

○今後の見通し

- ・中国の旧正月手当は終わったので、中国需要の盛り上がりも一息ついたとの見方が主で、豪州産の高騰も落ち着いたとのこと。ただし、中国の旧正月が終わるとどうなるか心配とする者も。相場は中国の動向に左右されると見る者が多い。

- ・現産地価格や為替相場の動向が懸念材料だが、豪州産、米国産とも関税が下がる分だけ価格も下がるとの期待も。

- ・豪州産と米国産の扱いについては、ナーベルとショートプレートとの価格の動きに注視する者も。

[参考] 部分肉価格と枝肉価格の推移 (豚肉、和牛肉)

